

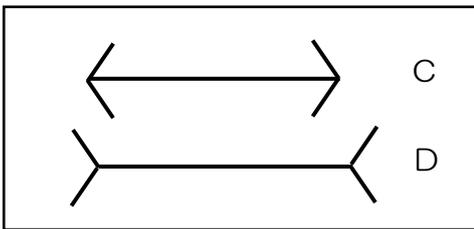
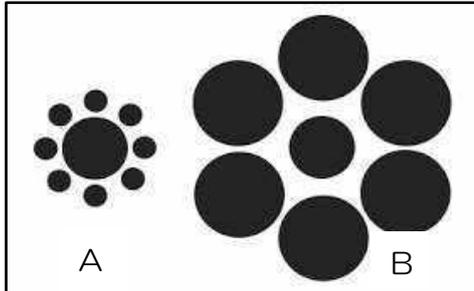
浦島伝説

令和4年 4 月19日

第 2 号



自分の見ているものすべての物は 自分の心の中にあるんだよ



昨年度の「浦島伝説」No.26 で、「エピングハウス錯視(さくし)」を紹介しました。2・3年生のみなさんは覚えているでしょうか。1年生と忘れた人のために、もう一度紹介します。

左上の絵を見てください。A：左の絵の中央にある円と B：右の中央にある円は、どちらが大きく見えますか？実は同じ大きさの円です。同じ大きさの二つの円の周囲を、それぞれ A：小さな円で囲んだ場合と、B：大きな円で囲んだ場合、A の円は B の円よりも大きく見えるという目の錯覚(さっかく)です。

また、左下 C、D の2本の横線を見てください。Dの方が、Cよりかなり長く見えます。5ミリくらい違うように見えますが、実は同じ長さなのです。実際に定規で測ってみてください。

人間の脳は「かなりだまされやすい」「思い込みのはげしい」ものなのです。私たちは、「人はものごとをあるがままに受け止めているものだ」と思い込んでしまいがちですが、実は、「心の中に自分

で作出したもの」を私たちは見えています。漫画家、絵本作家の小泉吉宏さんは、次のように書いて、「世界は自分の心が映し出しているもの」であることを教えてくれています。

自分の見ているものすべての物は 自分の心の中にあるんだよ

(「ブッタとシッタカブッタ」小泉吉宏 著)

眼でものごとを考えることはできない。

眼とは、ただ、感覚するだけである。

見たものを愛したり、憎んだり、

ああしたい こうしたいと思うことは 心に入ってからである。

目に入っているのに見えていないものがある。

耳に入っているのに聞いていないものがある。

(中略)

それなのに それなのに

人はものごとをあるがままに受け止めているものだと思い込んでいるよね。

ものごとの多面性、多様性を見ようとしないよね。

ものを見る時、聞く時、嗅(か)ぐ時、味わう時、どんな時でも心を通している。

心なしでは感覚しない。

それなのに それなのに

人はものごとをあるがままに受けとめているものだ と 無反省に思い込んでいるよね。

あなたが今気になる人 その人のことを見ている時、

その人そのものを見ているのではなく あなたの心の中に生じたその人の影を見ている。

心の中に作り出された その人に似たものをあなたは見ているのです。

でもあなたはその人そのものを見ていると 無反省に思い込んでいる。

(中略)

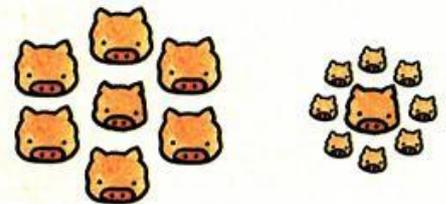
自分の見ているものすべての物は 自分の心の中にあるんだよ。

机も、鉛筆も、ノートも、本も、海も、ブタもサルもヒトもみんなみんな

幸福も不幸も希望も失望も、喜びも 悩みも みんな、みんな。

そして心もまた、生まれては 滅している、河(かわ)の流れみたいなもんだよ。

まんなかのブタ
右と左の図では
どっちが大きい？
……って聞かれると
右って
答えたくなるよね
どっちも
同じなんだけど



これはエピングハウスの錯視
という有名な錯視の図の
応用なんだけど
まわりのブタの大きさと
比べて見てしまうために
こういう見え方を
してしまうんだ
ぼくたちの目って
けっこういいかげんだね